（３）職員派遣

タ　イ　ト　ル	内　　容	日　　時	場　　所	担当者（分野）	参加者
学芸員と歩く野外博物館	資料館周辺の遺跡及び野草の観察会	4月1日（日） 10月4日（土）	塚原歴史民俗資料館	山口　瑞貴（植物）	14名
教職員研修会	理科実験事故防止講習会	5月8日（火）・10日（木）・16日（水）各：14時～16時	熊本市環境総合センター	山口　均（理工）	92名
熊本歴史学研究会例会	重要文化財　細川家舟屋形～御座船波奈之丸の歴史と舟屋形の移築について～	5月26日（土） 13時30分～15時	熊本市立図書館	木山　貴満（歴史）	50名
立田山自然探検隊 6月例会	自然観察会	6月17日（日）	立田山	清水　稔（動物）	70名
平成30年度くまもと県民カレッジ　熊本学Ⅱ	谷干城と熊本城籠城戦～熊本博物館所蔵資料でたどる籠城戦の実態～	6月22日（金） 10時～12時	くまもと県民交流館パレア	木山　貴満（歴史）	80名
八代史談会例会	熊本城のヒミツ～熊本城が迎えた危機について	7月7日（土） 10時～12時	やつしろハーモニーホール	木山　貴満（歴史）	80名
託麻公民館講座	科学工作を楽しもう！	7月22日（日） 10時～11時30分	託麻公民館	山口　均（理工）	106名
「学んで描こう！ 墨絵ワークショップ」	水墨画についての出前講座	7月29日（日）	くまもと森都心プラザ図書館　5階多目的室	甲斐　由香里 （保存科学）	10名
東区「子どもチャレンジ公民館活動」	自然観察会	8月10日（金）	秋津公民館・うぐいす川	清水　稔（動物）	7名
火星観測会 in 江津湖	火星の観察	8月4日（土） 19時30分～21時	水前寺江津湖公園 （広木地区）	野村　美月（天文）	50名
親子でチャレンジ「水の中の生き物に親しもう」	水棲生物の生態と飼育について	8月11日（土・祝）	北部公民館西里分館	清水　稔（動物）	30名
秋津公民館講座	レプリカを作って学ぶ太古の生物～アンモナイト～	8月18日（土） 10時～12時	秋津公民館	南部　靖幸（地質）	15名
中央公民館講座	科学工作を楽しもう！	8月25日（土） 10時～11時30分	五福公民館（会場借用）	山口　均（理工）	25名
出水小学校3年生PTA活動	親子で楽しむ科学工作	9月1日（土） 9時30分～11時30分	出水小学校体育館	山口　均（理工）	111名

タ　イ　ト　ル	内　　容	日　　時	場　　所	担当者（分野）	参加者
ミュージアム・キッズ！ 「全国フェア in 京都」	水の中で見える絵、消える絵「えっ？」 （科学工作）	9 月 1 日（土）～2 日（日）	京都みやこメッセ	野村 美月（天文） 南部 靖幸（地質）	802 名
文化財防災 DIG ワークショップ in 宮崎	文化財防災災害図上訓練 ワークショップ	9 月 9 日(日)	みやざきアートセンター	甲斐由香里 （保存科学）	40 名
熊本市水の科学館 「水辺散策会」	自然観察会	9 月 22 日（土）	熊本市水の科学館周辺	清水　稔（動物）	30 名
明治 150 年関連シンポジウム「熊本の維新と近代日本の可能性」	討論パネリスト	10 月 7 日（日） 13 時 30 分～16 時	熊本県立図書館	木山　貴満（歴史）	120 名
城北小学校 4 年生 PTA 活動	親子で楽しむ科学工作	10 月 10 日（水） 14 時 30 分～16 時	城北小学校体育館	山口　均（理工）	105 名
熊本市環境総合センター 「親子環境探検隊」	自然観察会	11 月 24 日（土）	金峰山少年自然の家周辺	清水　稔（動物）	30 名
わくわくえづっ子塾 「親子で春の七草を探してみよう」	公園内での春の七草観察会	2019 年 1 月 19 日（土）	水前寺江津湖公園 （広木地区）	山口瑞貴（植物）	20 名
文化財防災 DIG ワークショップ in 鹿児島	文化財防災災害図上訓練 ワークショップ	1 月 26 日（土）～27 日（日）	出水麗歴史館	甲斐由香里 （保存科学）	30 名
森都心プラザ図書館 「科学イベント」	大気圧と真空の実験ショー	3 月 17 日（日） ①10 時 30 分～ ②11 時 30 分～	森都心プラザ図書館	南部　靖幸（地質） 山口　均（理工）	68 名
清水公民館講座	科学工作を楽しもう！ （事前の実技指導）	3 月 23 日（土） 10 時～11 時 30 分	清水公民館	山口　均（理工）	2 名
塚原歴史民俗資料館　平成 30 年度講座閉講式特別講演	細川家舟屋形の解体移築について	3 月 24 日（日） 9 時 30 分～11 時	塚原歴史民俗資料館	木山　貴満（歴史）	33 名
熊本野生生物研究会談話会	江津湖の魚類と金峰山の 哺乳類についての講演	3 月 30 日（土）	熊本博物館講堂、展示室	清水　稔（動物）	22 名

(4)プラネタリウム

ア　プラネタリウムの構成

・プラネタリウムドーム　直径 16m
・ 座席数　180 席
・ プラネタリウム機器
　光学式投映機
　　（五藤光学 CHRONOS　）
　デジタル式投映機
　　（五藤光学 VIRTUARIUM　）
・ 音響装置
・ コントロールコンソール
・ 補聴装置（磁気誘導ループ方式）

イ　各種投映

(ア)一般投映番組

前半に星空解説、後半にオート番組の 2 部構成で投映を行った。

星空解説部分については、職員による生解説で投映当夜の星空を紹介した。

番組名　「火星～その先の宇宙
　　スペースエクスプロア」

投映期間　12 月 1 日（土）
　　～2019 年 4 月 14 日（日）

占星術の時代から地動説の確立までの天文学の発展の歴史、また天文学での発見がどのように宇宙開発に活かされているのかを紹介する内容。

(イ)ファミリーアワー

幼児から小学校低学年やその家族を対象に、プラネタリウムに親しんでもらう最初の機会として、毎週土曜・日曜、祝日、及び学校長期休業中の 11 時から実施した。

全体の投映時間は 40 分で、歌や掛け声を交えて、わくわく感の増す内容とした。

また、番組投映の前には当夜の星空紹介をする。

番組名　「キラキラ森のなかまたち
　　～まほうのモーフくん～」

投映期間　12 月 1 日（土）
　　～2019 年 6 月 16 日（日）

くまのコロタンが友達と共に迷子の宇宙人ピピカちゃんの両親を宇宙に探しにいく話を通して、惑星や流れ星など、身近な天体について紹介する内容。

(ウ)学習投映

小中学校の理科・天体学習の理解を深めるため、学校団体向けの投映を行うもの。

当夜の星空を中心に、星座、惑星、太陽・月・星の動きなどを生解説し、学年に合わせたテーマ番組の投映を行った。また、熊本市立小学校は、5 年生時に「金峰山少年自然の家」にて宿泊教室を行うことから、目的地に向かう前に当館を訪れてもらい、その際にプラネタリウム投映を行っている。

宿泊教室以外の「学校行事等」での利用にも対応している。

(※)学習投映における各種番組の内容は、次のページのとおり。

(※)学習投映番組

タ イト ル	内　　容	投映回数	学校数
星が見てきた KUMAMOTO	熊本市立小学校 5 年生時の「金峰山少年自然の家:集団宿泊教室」の事前学習として、宇宙の誕生から現在の熊本に至るまでの歴史を紹介。	17 回	19 校
むしむし星空大行進	(小学校 1･2･3 年生向け)星座神話にちなんだ名前の昆虫たちを通して星や生物に親しむ内容で、四季の星座や太陽系の天体、南半球の星座などを紹介。	0	0
スタジオ 444 ～空のフシギをさぐれ！～	(小学校4年生向け)教科書での学習内容に合わせ、月の見え方や星の明るさ、色の違い、時刻による見え方の違いなどを説明。	9 回	9 校
ポワンとフーニャンの宇宙調査隊 ～月と太陽のひみつ～	(小学校6年生向け)教科書での学習内容に合わせ、月の見え方と太陽･月の位置関係、月と太陽の表面の様子の違いなどを説明。	1 回	1 校
この空に願いをこめて･･･	(中学生向け)教科書での学習内容に合わせ、日周運動、年周運動、月の公転と満ち欠け、太陽系の天体、銀河系、宇宙の構造などについて説明。	2 回	2 校

(エ)幼児団体向け投映

幼稚園や保育園などの幼児団体向けの投映を行うもの。投映時間は 40 分で、星空の紹介(生解説)と幼児向け番組の 2 部構成。

投映期間と内容は、前述(イ)ファミリーアワーと同様である。

ウ　観察会等

(ア)革新的衛星技術実証 1 号機イプシロンロケット 4 号機ロケット打ち上げ中継パブリックビューイング

鹿児島県の内之浦宇宙空間観測所より打ち上げられたイプシロンロケット4号機の打ち上げライブ中継をプラネタリウムドームに投映した(パブリックビューイング)。

日　時　2019 年 1 月 18 日(金)
　　9 時 30 分～10 時 30 分
参加者　130 名

(イ)部分日食観察会

部分日食が約 3 年ぶりに熊本で観察できることから観察会を実施した。

日　時　2019 年 1 月 6 日(日)
　　9 時～12 時
参加者　150 名

(5)連携講座

通年講座「金峰山の地質」

主　催　熊本県博物館ネットワークセンター（以下、県ＮＷＣ）
　　熊本博物館

【第一回】

日　時　7 月 1 日（日）10 時～12 時
場　所　県ＮＷＣ
講　師　川路　芳弘 氏（錦ケ丘中）
　　廣田　志乃 氏（県ＮＷＣ）
　　南部　靖幸（地質）
参　加　27 名
内　容　金峰山と火山の概要（座学）

【第二回】
日　時　9月2日（日）10時～16時
場　所　金峰山山頂、面木地域周辺
講　師　川路　芳弘 氏（錦ケ丘中）
　　廣田　志乃 氏（県ＮＷＣ）
　　南部　靖幸（地質）
参加者　27名
内　容　金峰山（一の岳）と面木溶岩

【第三回】
日　時　11月4日（日）10時～16時
場　所　独鈷山、松尾町、上松尾町、
　　西松尾町（浪先石・いんの川）
講　師　川路　芳弘 氏（錦ケ丘中）
　　廣田　志乃 氏（県ＮＷＣ）
　　南部　靖幸（地質）
参加者　23名
内　容　古金峰の火山岩類と成層火山、
　　島原大変肥後迷惑

【第四回】
日　時　2019年1月20日（日）10時～16時
場　所　フードパル、太郎迫神社、瑞巌寺、
　　お手水、鳴岩の湧水
講　師　廣田　志乃 氏（県ＮＷＣ）
　　南部　靖幸（地質）
参加者　18名
内　容　金峰山北東麓の湧水と
　　阿蘇の火砕流台地

【第五回】
日　時　2019年3月3日（日）10時～14時
場　所　三ノ岳、金峰森の駅みちくさ館
講　師　川路　芳弘 氏（錦ケ丘中）
　　廣田　志乃 氏（県ＮＷＣ）
　　南部　靖幸（地質）
参加者　16名
内　容　金峰山中期噴出物（三ノ岳溶岩）と
　　板状節理、講座の振り返り

（６）講演会

ア　リニューアルオープン記念天文講演会
「日本の月探査 SELENE（かぐや）計画から UZUME 計画」
日　時　12月15日（土）
　　15時～16時30分
場　所　プラネタリウム室
講　師　春山　純一 氏
略　歴　福島市出身、京都大学大学院・理学研究科卒、理学博士、現 宇宙航空研究開発機構（JAXA）、宇宙科学研究所(ISAS) 助教他、会津大学特任上級准教授、早稲田大学客員研究員
　専門は月惑星科学（探査機によって得られたデータの解析や理論的な研究）、月惑星探査。
　特に、月周回衛星 SELENE(かぐや)の科学観測用カメラチームリーダーを務め、更に現在は月地下空洞を目指す UZUME Project のリーダーを務める。他にも、国内外の月惑星探査に多数携わっている。
主　催　熊本博物館
参加者　140名
内　容　日本の月周回衛星「かぐや」が発見した月の地下洞くつや、その探査計画「UZUME（うずめ）」について講演いただいた。
　地球や月についての基礎情報の解説から始まり、月周回衛星 SELENE（かぐや）の観測により発見された地下空洞に関する研究についての最新の情報、そして、未来の月探査計画である UZUME 計画についてと幅広い話題の提供があった。
　質疑応答では参加者からの「他のクレーターでも溶岩チューブは見つかるのか」「人類は近いうちに火星に行くことができるのか」といった質問に対し、春山氏の考えを丁寧に回答いただいた。

講演会チラシ

イ　天文講演会

「太陽系ヴァーチャルツアー　新・パノラマ太陽系」

日　時　2019 年 3 月 21 日（木・祝）
　　15 時～16 時 30 分

場　所　プラネタリウム室

講　師　縣　秀彦 氏

略　歴　長野県出身、東京学芸大大学院修了（教育学博士）、東京大学教育学部附属中・高等学校教諭等を経て国立天文台勤務、国立天文台准教授/普及室長、国際天文学連合（IAU）・国際普及室（OAO）長、宙（そら）ツーリズム推進協議会代表、信濃大町観光大使

主　催　熊本博物館

参加者　136 名

内　容　一般投映番組「火星～その先の宇宙スペースエクスプロア」が太陽系惑星を扱った番組であるため、関連する内容として惑星の成り立ちや惑星探査の最新の成果、太陽系の起源や私たち生命の起源について講演いただいた。

　講演では国立天文台が開発したフリー宇宙シミュレーションソフト「Mitaka」を用いて、参加者が希望する天体までの宇宙旅行を楽しみ、また、その天体の解説を縣氏が行うという場面があった。

　講演後のアンケートによると、Mitaka を使っての解説は子どもだけでなく大人にも非常に好評であったようで「（Mitaka を）家でもぜひ使ってみたい」「子どもの図鑑で見たものが 3D で見れて勉強になりました」などの感想が寄せられた。

　質疑応答では子どもたちからの「宇宙はどうやってできたのか」「地球以外にオーロラが見える星はあるのか」といった質問に対し、笑いを交えながらわかりやすく回答いただいた。

講演会チラシ

ウ　リニューアルオープン記念民俗講演会

「小泉八雲と熊本」

日　時　2019 年 1 月 27 日（日）

場　所　熊本博物館 講堂

趣　旨　当館リニューアルにともない、民俗分野では、著書「生と死の断片」に書かれている「小泉八雲が見たトンボの造り物」をイメージした展示を行っている。

　その展示関連の催事として、八雲が熊本で何を見、何を感じたのか、講演会を通して考えていただき、展示を深く楽しんでもらうことを目的とした。

講　師　坂本　弘敏 氏
　　小泉八雲熊本旧居 館長

主　催　熊本博物館

参加者　33 名

※　以下は講演の後日、講師の坂本氏より
　寄せられた講演資料（講演のまとめ）

１　はじめに

優れた文学者であった小泉八雲（ラフカディオ・ハーン/1850-1904 以下、「ハーン」とする）は、東洋と西洋の両方に生きたと言われています。明治期の日本はまだ近代化途上にあり、地理的にも小さな日本は世界からは未だ周縁の土地の感がある時代でした。そのような中にあって、外国人でありながら日本をこよなく愛し、日本女性を妻として日本名（小泉八雲）を名乗り、霊妙な文筆を以て、日本を世界に紹介するなど「西洋と日本の橋渡し役」を担ったハーンの功績には大きいものがあります。

ハーンの書いた「耳なし芳一」や「雪女」など、怪談があまりにも有名なため、ともすればミステリー作家とも思われがちですが、「怪談」は彼の作品の一部で、実際には文学者として、文芸評論家として、また民俗学者として随筆、紀行文、文芸批評、民俗学、翻訳（主としてフランス文学の英訳）などの幅広い分野で功績を残しています。

東京帝国大学では、英語・英文学の講義を担当し、英文学史、詩論などの著書もあり、紀行文の名手として、いかに研ぎ澄まされた感性と華麗な文体を兼ね備えていたかを窺い知ることができます。

本日は、そんな魅力を備えたハーンについて、五高教師として三年間を過ごした熊本とハーンとの関わりについて、作品や逸話を交えてお話をさせて戴きます。

２　ハーンと小泉八雲熊本旧居

熊本とハーンとの出会いは、1891（明治 24）年 11 月 19 日の夕刻、春日駅（現在の熊本駅）に到着した日から始まります。

駅頭に出迎えたのは、講道館柔道の創始者であり、第五高等中学校（現在の熊本大学）の三代目校長であった嘉納治五郎でした。さて、ハーンは校長自らが出迎えるほど著名だったのでしょうか？ハーンの着任を報じた当時の熊本新聞（11 月 27 日付）を紐解いてみますと、第一に日本風俗習慣の美徳を愛し、日常生活に日本風を採用している。第二に外国人でありながら、日本人の妻を娶っている。第三に文学において優れた著書が少なからずあると記載されております。確かに当時のお雇い外国人の中にあっては、特筆すべき人物であったようです。

ところが、校長自らが出迎えたのには、11 月 10 日から 21 日まで全校生徒と教師陣は島原へ修学旅行のため不在だったのです。

真相は定かではありませんが、推し測ってみますといろいろ面白い事実が分かってきます。

明治 24 年 11 月 25 日にハーンとその家族が入居し、一年間を過ごした第一旧居「小泉八雲熊本旧居」は、明治 10 年の西南戦争で焼失し、逼迫した資材不足の中、古材を利用して再建されたものです。昭和 20 年の熊本大空襲で界隈はまたも焼失しましたが、旧居は玄関前の高石塀のお陰で類焼を免れました。一時期は老朽化のために取り壊される予定でしたが、有志の方々の熱意と愛情と尽力のお陰で、1961（昭和 36）年に現在地（以前は鶴屋百貨店本館の東北角地あたりにあった）に引き家し、江戸時代末期の武家屋敷様式をそのままに平成 7 年に解体復原したものです。室内にはハーンが家主（旧細川藩士赤星晋策氏）に特注し、毎朝柏手を打って拝んだと言われる「神棚」が当時のままに祀られています。また、旧居正面入り口の軒瓦は、現在の鶴屋駐車場付近にあった横井小楠家の軒瓦（丸に三鱗の家紋入り）が再利用されており、10 枚程度が確認できます。幕末の政治家、横井小楠とハーンは思わぬところで熊本の歴史を繋いでいます。

ハーンは熊本で三年間を過ごしましたが、二年間住んだ第二旧居（現在の熊本市中央区坪井 9-8 にあった）は、1981（昭和 56）年に取り壊され、その場所に標柱石を残すのみですが、後ほどそこで著作された作品を紹介しながら往事を偲んでみたいと思います。

３　幼年時代とハーンの足跡

ハーンはアイルランド人を父とし、ギリシャ人を母として、ギリシャのレフカダ島に生まれました。不幸なことに幼い時期に父母が離婚、4 歳で母との永遠の別れとなりました。離縁された母に対する深い哀れみと思慕の念は、彼の女性観に強い影響を与え、日本の女性の礼賛や作中にも窺い知ることができます。

ハーンは自らの生い立ちについて言葉少なでした。晩年に記された「断片的回想」には幼年時代の記憶がなまなましく回想されており、なぜか陰鬱な屋敷の片隅にぽつんと佇む孤独で内向的な子ども時代のハーンが目に浮かびます。象徴的原体験の中で、根源的な不安感、欠落感、喪失感がハーンの人生の出発点でもありました。

ハーンは生まれつき強度の近視にも拘わらず、16 歳の時に遊戯中の事故で左眼を失明しました。醜い変形した傷痕と突出した眼球のため、彼の写真はそれを隠すように全て右を向いているのはこのことからです。天涯孤独の中で 19 歳の時に移民船でアメリカに渡り、見知らぬ土地であらゆる辛酸をなめ尽くし、下積み時代を経てジャーナリストとしてその文才を見出され、才能を開花させました。

アメリカ時代に弟ジェームス・D・ハーンに宛てた手紙に生き別れた母を思い、「どんな大金よりも、私は母の写真が欲しい」と再会が叶わなかった母への思いを吐露しています。熊本で書かれた「夏の日の夢(The Dream of a Summer Day) 東の国から所収」に、唯一母への思いが出てくる場面があります。三角西港の洋風旅館「浦島屋」でハーンを唸らせた、西洋人のように目鼻立ちのくっきりとした面長の美しい女将「山下よし」に、ギリシャのレフカダ時代の幸福な幼年期の回想を重ね、母への思いを投影したものと思われる場面があります。「怪談」に「雪女」や「青柳のはなし」、「お貞のはなし」など美しくもはかない女性の話がよく出てきますが、作品のそこかしこにハーンの母への思慕がみてとれます。

４　ハーンが教えた五高

ハーンが三年間を過ごした旧制第五高等中学校（現在の熊本大学）は、1886（明治 19）年公布の中学校令に基づいた高等中学校で、全国に五箇所設置され、五高は 1890（明治 23）年 10 月 10 日に開校されました。俊才を集めた学校でナンバースクールとも呼ばれていました。開校時には花火、運動会、競馬などの余興も催され、一般市民を含め来校者は二万人にのぼったそうです。五高は代表的な日本建築で明治 25 年のシカゴ博覧会にその設計図が出品されるなど、建物は世界に誇るべきものでした。本科の修業年限は二年間で、その授業は外国語の教科書を多用する高度なものでした。

ハーンは、前任のイーバル・クラミー外国人教師の後任でしたが、教育法も教科書を使わず、英作文中心の教授法で生徒たちの人気は極めて高かったようです。当時の生徒の中には、赤星典太（熊本県知事）、林一蔵（民生委員の父、大阪府知事）、上田敏（詩人）、土井晩翠（詩人）など著名な人々がいました。ハーンは西南の役や明治熊本地震により、松江と比べて荒廃した熊本の景観にがっかりしましたが、外面的景観より庶民の心性や生活信条の内面的なものに熊本の美徳を感じ、そのよき理解者でもありました。

五高においては、校長で講道館柔道の創始者でもある嘉納治五郎 (1860-1938)の影響を受け、柔道の精神である「精力善用」・「自他共栄」の思想に共鳴しました。また、元会津藩士であり、白虎隊の先生でもあった同僚の秋月胤永（悌次郎）（1824-1900）は、一挙一動に現れる旧時代の完璧な道徳「親切、礼儀、自己抑制、献身、孝心、素朴な信仰、わずかなもので満足する知足の知恵」を称し、「まるで神の様な人であった」とハーンから熱烈な敬愛を受けた人物でした。熊本五高における「剛毅木訥」は、一重に秋月教授の感化力に負うところ甚大だったようです。ハーンはこれらの人々と親しく交わり、五高生と接する中で熊本に残る昔の古き良き日本精神の象徴・体現である「簡易、善良、素朴」、すなわち「熊本スピリット」を感得す

ることができました。

５　熊本を舞台にした作品から

ハーンが熊本の情景を記した著作に 8 作品がありますが、第二旧居を舞台にした作品で「生と死の断片（Bits of Life and Death）東の国から所収」があります。

当時の熊本では真夏に「屋根に打ち水」の慣習があり、八雲が坪井の第二旧居で迎えた夏のある日、屋根へ打ち水を行うために地元の火消し人足たちが訪ねて来ました。屋根への打ち水は、夏の乾燥した時期に行われていた慣習で、「長いこと雨が降らなければ、屋根は太陽の熱で火が付く」と言われていました。火消し人足たちは、手押しポンプを使って、「屋根や、樹木や、庭などに水を掛け、かなり涼しい雰囲気を作り出した」そうです。打ち水の後、火消し人足たちは裕福な家から少しばかりの報酬を受け取っていました。ハーンも打ち水の後には、「酒を買えるだけの祝儀」を返礼として渡したそうです。

第二旧居の道向かいに東岸寺地蔵堂（平成 24 年に天草御所浦の本寺へ移設）がありましたが、毎年夏には地蔵祭（平成 24 年まで実施されていた）が行われました。祭りの前日に子どもたちが寄進のお願いにハーンの家を訪れると、地蔵や祭りを好ましく思っていたハーンは喜んで寄付を行いました。祭り当日に八雲が家を出ると、色紙でくるんだ松の枝の胴体と四つの十能（小さいスコップ）の羽、きらきら光った土瓶の頭を持つ 1mほどもあるトンボの飾り物が門前に止まっていました。それは、寄付のお礼にハーンに贈られたもので、すばらしいそのトンボがわずか 8 歳の子どもが独りでこしらえたものであることにハーンは大変驚き、感激したそうです。

６　おわりに

ハーンの作品を読んでいますと、その霊妙な文体とともに、今日的な視点で日本人が日本を見つめ直す上で気付かされることが多々あります。その意味でハーンの生き方、精神性を文化資源として現代にどう生かすかは、新たな課題の一つといえるかと思います。

ハーンは「自然は偉大なる経済家、生き残る最適者とは自然と最もよく共生できて、わずかなもので満足できる人々である」と記しています。物質的経済成長により、「物質的な豊かさを求めるが故に、心の豊かさが失われる」という人間中心主義へのハーンの警告ともみてとれる言葉は、五高での「熊本スピリッツ」の講演内容にも窺い知ることができます。

感性豊潤でかつ自然災害に敏感だったハーンは、「生神様（A Living God）」の三節にある「稲むらの火 Tsunami」の逸話をとおして、「人間と自然との付き合い方」や「豊かさ」の意味をあらためて見直す契機につなげています。この作品が文化資源として生かされた例として、1854（安政元年）11 月 5 日に和歌山県で発生した大津波（安政南海地震）に基づく「稲むらの火」の逸話は、我が国では 2011（平成 23）年に津波発生の 11 月 5 日を「津波防災の日」として制定し、さらに 2015（平成 27）年には国連会議において同様に「世界津波の日」として制定がなされています。その教材活用等により、その後多くの人命が救われたことは周知のとおりです。

「ハーンは日本の恩人であり、日本はハーンの恩人である」とも言われており、数々の作品、生き方、精神性を文化資源として今後に生かすことこそ、ひいては彼の恩に報いることにも繋がるように思っております。